

八木アワード

「八木浩輔クォークマターアワード」（略称：八木アワード）
“Kohsuke Yagi Quark Matter Award” (Yagi Award)



概要

故 八木浩輔氏（筑波大学名誉教授）のご遺族より「原子核物理学の若手研究者育成の支援」として、特定使途寄付金が理研数理創造プログラム(iTHEMS)に寄付されました。八木浩輔氏は原子核物理学における著名な研究者で、論文、著書、国際会議開催、大学運営などを通じて多大な足跡を残されました。故人の遺志とご遺族の意向を尊重し、この寄付金を「八木浩輔クォークマターアワード」の創設に使わせて頂くことになりました。

運営委員会

- 初田哲男（理化学研究所 数理創造プログラムディレクター）委員長
- 永宮正治（高エネルギー加速器研究機構 名誉教授）
- 平野哲文（上智大学 理工学部 教授）
- 三明康郎（筑波大学 数理物質系 教授）

協力

- 高温・高密度QCD物質オープンフォーラム (QCDMOF)

<https://ithems.riken.jp/ja/about/yagi-award>

対象

以下の条件をすべて満たす若手研究者

1. クォークマター国際会議(*) でプレナリー講演を行うこと。
2. 当該クォークマター国際会議のプレナリー講演者に決定した時点で、40歳未満であること。
3. 日本国籍を有すること。

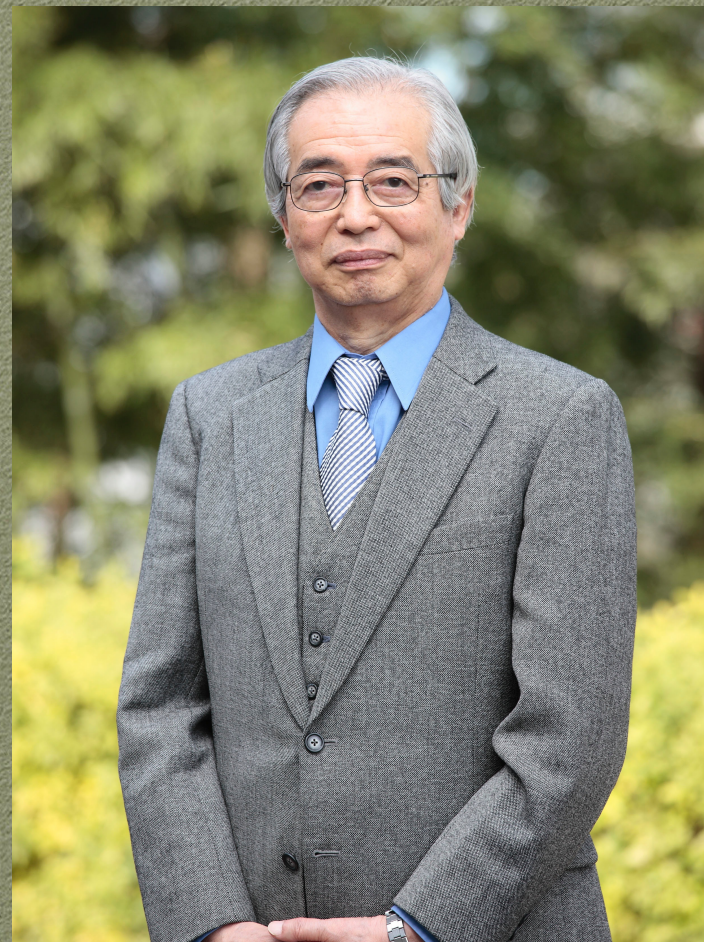
授与式

当該のクォークマター国際会議終了後、「高温・高密度QCD物質オープンフォーラム(QCDMOF)」が推進あるいは開催するミーティングにおいて、証書を授与する。

支援内容

iTHEMSが主催・共催する講演会、セミナー、会議等への招聘旅費（上限20万円）

八木先生と クォーク・ グルーオン・ プラズマ研究



初田哲男

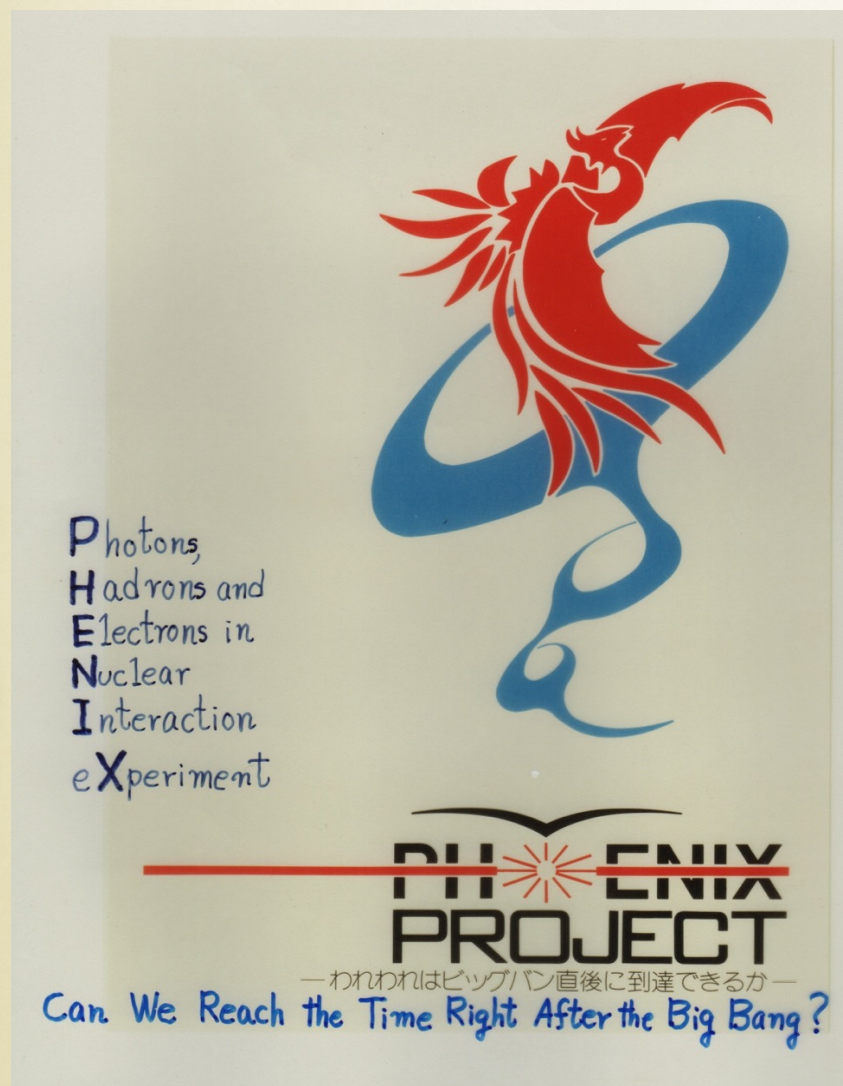
2010年頃

「八木アワード授賞式」(2022年4月30日)

八木先生とクォーク・グルーオン・プラズマ研究（年表）

西暦	年齢	経歴	クォーク・グルーオン・プラズマ関係
1992	58歳		QGP: 日本物理学会シンポジウム
1995	61歳	筑波大学 第一学群自然科学類長・評議員	QM1997: 第13回クォークマター国際会議開催提案
1996	62歳	筑波大学 副学長	
1997			QM1997: 第13回クォークマター国際会議 開催（つくば）
1998	64歳	筑波大学退職,名誉教授 浦和(短期)大学教授	
2005	71歳		QGP本：ハードカバー刊行
2007	73歳	浦和大学学長	
2011	77歳	浦和大学退職,名誉教授	
2014	80歳	ご逝去	
2015			QM2015: 第25回クォークマター国際会議 開催（神戸）

1992年、国内研究グループ PHENIX-Jを組織



PHENIX実験パンフレット
(八木先生発案のロゴマーク)

PHENIX国際共同研究 のExecutive Council就任



Collaboration Management

Project Management:

Spokesperson:	S. <u>Nagamiya</u> (Columbia) nevis::nag
Project Director:	S. Aronson (BNL) bnlcl6::aronsons
Deputy Project Director:	G. Young (ORNL) orph01::young
Project Engineer:	L. Paffrath (BNL) bnlcl6::paffrath
Liaison Physicist:	B. Johnson (BNL) bnl::brant
Assistant for Project Management:	W. Kehoe (MIT) bnlcl6::kehoe

Executive Council:

USA:	P. Braun-Munzinger (SUNY - Stony Brook)
	J. Moss (LANL)
	F. Plasil (ORNL)
Japan:	R. <u>Hayano</u> (Tokyo)
	K. <u>Yagi</u> (Tsukuba)
Russia:	A. Vorobyov (PNPI - St. Petersburg)
	V. Manko (Kurchatov, Russia)
China:	Z. X. Sun (CIAE, Beijing)
	Z. P. Zheng (IHEP, Beijing)
Germany:	R. Santo (Muenster)
Sweden:	I. Otterlund (Lund)
Canada:	S. K. Mark (McGill)
India:	TBA

Detector Council:

Magnet:	J. Thomas (LLNL)
Inner Detectors:	B. Jacak (LANL)
Tracking:	E. O'Brien (BNL)
RICH:	H. <u>Hamagaki</u> (INS, Tokyo)
TOF:	Y. <u>Miake</u> (Tsukuba)
EM Calorimeter:	S. White (BNL)
Muon:	P. McGaughey (LANL), acting
On-line:	G. Young (ORNL) + W. Zajc (Columbia)
	+ T. Carey (LANL)
Simulation:	C. Maguire (Vanderbilt)
Off-line:	S. Sorensen (Tennessee)

1992年 日本物理学会 秋の分科会（新潟大学）

* 序：われわれはビッグバン直後に到達できるか

- * クォーク・グルオンプラズマの徴候と先駆現象
- * 200AGeV硫黄・原子核衝突における2粒子相関実験
- * RHIC加速器とその物理
- * PHENIXの目指すもの
- * KEK-PSコライダーと周辺の物理
- * Physics of quark matter

八木浩輔

宮村修

鷺見義雄

早野龍五

三明康郎

千葉順成

M. Jacob

4p-K-1

序：われわれはビッグバン直後に到達できるか

筑波大物理

八木浩輔

Introduction: Can We Reach the Time Right After the Big Bang?

Institute of Physics, Univ of Tsukuba Kohsuke YAGI

我々の宇宙は、約150億年前のビッグバンから始まったとされる。ビッグバン宇宙の極めて初期に、クォークとグルオンが閉じ込め状態から開放されたプラズマ状態、即ちクォーク・グルオンプラズマ（QGP）が存在したと推定される。現在の宇宙論と素粒子物理そして量子色力学（QCD）が予想するこの新しい物質状態QGP、即ちQCD相転移は本当に存在するのであろうか。地上の実験室で唯一の方法と考えられる高エネルギー重イオン衝突実験によりQGPの生成を試み、それを検出すること、そしてクォーク・グルオン相互作用の詳細を究明することは、原子核物理学の重要な課題である。さらにこの研究はQGP以外にも、これまで人類が地上で経験した事の無い新しい実験条件である高エネルギー密度下に於けるハドロン相の研究、高温・高密度状態での核物質の研究、地上での中性子星の内部状態の研究など原子核、素粒子、宇宙物理の新しい境界領域を開拓することが期待される。



1997年 第13回クォークマター国際会議開催



Quark Matter'97

Tsukuba Japan, December 1-5, 1997



Quark Matter'97

Tsukuba Japan, December 1-5, 1997



プレナリー会場
バンケット

<http://wwwhix.px.tsukuba.ac.jp/qm97/>

2015年、第25回クォークマターが神戸で開催



QUARK MATTER 2015

<http://qm2015.riken.jp>

XXV INTERNATIONAL CONFERENCE ON ULTRA-RELATIVISTIC NUCLEUS-NUCLEUS COLLISIONS

Date: September 27 - October 3, 2015

Place: Kobe, Fashion Mart, Japan